

家庭科 授業改善推進プラン

学年	児童の実態
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習や裁縫の学習に関心をもち、意欲的に取り組む児童が多い。また、学んだことを家庭で実践しようとしている。 生活経験及び技能面での個人差については、個別指導や児童同士の学び合いを通して、十分行うことが課題である。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> 調理実習などの実践的学習には、積極的に取り組む児童が多いが、学習活動や生活全般において、受け身で消極的な児童も見られる。 家族が健康で気持ち良く生活するために、家族の一員としての意識を高め、実践できるようしていくことが課題である。

☆今年度の教科の重点

<第5学年>

◎ 生活を見つめ、できることを増やしていくようにする。

家庭生活を大切にする心情を育み、日常生活に必用な基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指すようにする。

<第6学年>

◎ くふうして生活に生かしていくようにする。

衣食住などに関する知識と技能を身に付け、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育て、よりよい生活者を目指すようにする。

☆授業改善の具体例

〈第5・6学年共通〉

- 自分の身近な生活に目を向けさせ、家庭での取材や調査・実践を通して、家族の一員である自分にできることを具体的に考える力を養う。
- 考えを深め広げるために自力から学び合いの場を設定する。自分の考えをしっかりとともたせ、考えを交流させることを通して学習の充実を図る。
- 学習したこと（講義・実習）をノートやワークシートにきちんと記録しまとめさせ、振り返らせる。
- 個人差に配慮した指導法を工夫する。（ペア学習・グループ学習・個別指導を使い分ける。）
- 既習学習との関連・中学校との関連を意識し、A 家庭生活と家族 B 日常の食事と調理の基礎 C 快適な衣服と住まい D 身近な消費生活と環境 の4つに整理された同一内容の系統性や連続性を考えて指導にあたる。

☆評価・改善